

国際ダンスプロジェクト  
KBB/DANSEUSE SANS FRONTIERES

**KO**

**Murobushi**

**BERNARDO**

**Montet**

**BORIS**

**Charmatz**

**2009.5.28 Thu. 19:00-**

**Keio University (Hiyoshi)**

2009年5月28日(木) 慶應義塾大学(日吉) 来往舎イベントテラス

16:00- ダンス映像上映(室伏鴻、ボリス・シャルマツ 記録映像)

ゲスト: バジル・ドガニス、パトリック・ドゥ・ヴォス

19:00- パフォーマンス Work In Progress

入場無料・事前申込み不要 東急東横線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車 徒歩1分

ワーク・イン・プログレス

〈磁場、あるいは宇宙的郷愁〉



photo: Sayaka Takayama

昨年 5 月の日吉でのパフォーマンス 〈quick silver〉 で多くの観客を集め絶賛

を浴びた**室伏鴻**が、フランスの二人のダンサーとともに戻ってきた。

フランスのヌーベルダンスに衝撃を与えてきた**ベルナルド・モンテ**と、土方巽

のテキストによる作品〈**La Danseuse malade** 病める舞姫〉で今やヨーロッ

パを席卷している**ボリス・シャルマツツ**。そして、室伏鴻。

世界の**エッジ**に立ち、**国境なきダンサー**として活動する 3 人が、ついに日

本に集結し、待望の日吉セッションが実現する。

**世界が目目するダンスプロジェクトが沸騰する。**

## 磁場、あるいは宇宙的郷愁



### 室伏鴻 (むろぶし こう)

1968 年の土方巽の舞踏〈肉の叛乱〉を見てアスベスト館に入門、土方巽に師事。1971 年、出羽三山での修験道の修行を経て、翌 1972 年に大駝駱駝の創立・旗揚げに参加する。中心メンバーとして一連の天賦典典の公演に出演するとともに、女性舞踏手のカンパニー、アリアドネの会をプロデュース。1976 年には、舞踏派火を立ち上げ、福井県五太子町に北龍峡を拓き、旗揚げ公演として『虚無僧』を発表。

1978 年 1 月にパリで『最期の楽園—彼方の門—』を上演、舞踏が世界の BUTOH として認知されるきっかけとなる。1986 年 6 月、土方巽の死を追悼して、パリ・ユネスコ本部にて Ko MUROBUSHI Company で *PANTHA RHEI* を上演。以後ヨーロッパ・中南米を中心に舞踏活動を遂行する。

1998 年からは日本でその公演活動も本格化する。2000 年にウィーンでの Internationale Tanzwochen, モンペリエ・ダンス・フェスティバル、National Gallery of Modern Art (ローマ) などでソロ公演。また、ベルナルド・モンテに招かれ、*Dissection d'un homme arme* のゲスト・ダンサーとして、テアトル・ドゥ・ラ・ヴィル (パリ)、TNB レンヌ、モンペリエ・ダンス 2000 で踊る。

2001 年、メキシコとの共同製作で *Edge01* を発表し、日本でも世田谷パブリックシアターなどで公演を行う。2004 年には Ko & Edge Co. を組織し、*Experimental Body vol.1 Heels* (神楽坂 die prätze) を構成・出演。2005 年ソロ作品 *quick silver* を大野一雄フェスティバル (BankART) で初演。つづいて、日本人として初めてヴェネチア・ビエンナーレ・ダンスフェスティバルに招聘され *quick silver* を発表し、以降、世界各地で公演している。2008 年には、慶應義塾大学で *quick silver HIYOSHI edition* を上演した。

2007 年、2008 年とつづいて、フランスのアンジェ国立コンテンポラリー・ダンスセンターで舞踏の集中授業を行い、好評を得ている。

### Bernardo Montet (ベルナルド・モンテ)



の伝説となっている。

1986 年、François Verret との新作デュオ *La Chute de la Maison de Carton* (The fall of the cardboard house) を発表。翌 1987 年、メキシコ映画監督 Teo Hernandez の抵抗精神の過激な革新性に触発を受けて、ソロ作品 *Pain de Singe* (Monkey Bread) を創作。

Catherine とともにレンヌ国際振付センター芸術監督に就任し、彼自身のグループ独自の手法を用いた創作に集中。1995 年に、精緻された身体感覚、漲る生命力、生きる希望を表出させた作品 *Opuscules* を発表。さらに、作家でソリストでもある Pierre Guyotat との共同制作作品 *Isse Timosse* で植民地時代の歴史を追い、人間の存在価値を問いかけた。

1998 年、プレスト Quartz にて *Ma Lov'* を発表。Jacques Blanc の演出でイスラエルのアーティストたちを起用し、領土と戦線をテーマに取上げた作品である。2000 年に制作した *Dissection d'un homme arme* (Dissection of an Armed Man) は、武装集団に焦点を当てて今日のアフリカの荒廃を分析した作品で、団体感覚の喪失から名もなき集団の存在意義までを、徹底的な皮膚感覚の分析をもって振付した。モンペリエダンスフェスティバルでの上演には、室伏鴻をゲストダンサーとして迎えている。

言語を用いた作品創作を継続的に、2001 年にラシーヌの古典作品 *Berenice* を上演、翌 2002 年にはオセロの神話 *O. More* を創り、ここで彼の創作の芯となっているテーマに再度向き合うこととなった。

その後も、身体感覚とその状態への考察を重ね、2004 年 *Parcours 2C* (Vobiscum)、2005 年 *Coupedecale*、2006 年 *Batraciens s'en vont*、そして 2007 年には *Batracien, l'après-midi* を続けて発表し、フランスのコンテンポラリーダンスを代表する高い評価を得る。現在、トゥール国立振付センターの芸術監督を務めている。

### Boris Charmatz (ボリス・シャルマツツ)

1973 年フランスのシャンペリーに生まれる。

パリ・オペラ座のバレエスクールを経て、リヨン国立コンセルヴァトワール (音楽ダンススクール) にて学ぶ。Régine Chopinot に抜擢され、*Ana* (1990) および *Saint-Georges* (1991) に出演。また、Odile Duboc のダンスカンパニー Contrejourへ誘われ、*7 jours/7 villes* (1992)、*Projet de la Matière* (1993)、*Trois Boléros* (1996) の舞台を踏む。この間、1993 年には Olivia Grandvill と Xavier Marchand 創作の作品 *K de E by* に参加。

1992 年、Dimitri Chamblas とともに "edna association" を設立。共同でデュオ作品 *Les Disparates* を書き下ろす。1996 年、三段に組まれた狭い檜のそれぞれのレベルで三人のダンサーが踊る *Aatt enen tianon* を発表 (1997 年来日公演)。1997 年に 5 人のダンサーとチェロ演奏による *horses - une lente introduction* を、1999 年には John Giorno のテキスト、Otomo Yoshihide の音楽による *Con forts fleuve* を創作。2002 年、ロシア人形から着想した *héâtre-élévision* を発表。パフォーマンスを撮影し、それをインスタレーションとして同時に観客にみせる、斬新な作品であった。4 年後、この作品のライブバージョンとして *Quintette Cercle* を上演。2006 年に Julia Cima およびドイツの振付家 Raimund Hoghe とともに *régi* を制作する。

2002 年から 2004 年まで、国立ダンスセンターにクリエイターとして在籍し、リサーチと創作を担い、*the Bocal* (Glass Jar project) と呼ばれる暫定的、遊牧的なスクールを展開。2007 年ベルリン芸術大学に正式に発足したダンスクラスではゲスト講師として力を注ぐ。

"edna association" がプロデュースするプロジェクトやシリーズの創作など、国内外での活動は年間平均 60 公演に及ぶ。翻訳や執筆も手掛け、著書に *Entretenir/About a contemporary dance* (Isabelle Launay との共著) があり、今年 *Je suis une école* を出版する。

最新作は、舞踏の創始者土方巽のさまざまなテキストを大胆に使い、女優 Jeanne Balibar とのデュオ *La danseuse malade* で、2008 年 9 月のフランスのアンジェでのプレミアでは大絶賛を浴び、その後、パリをはじめヨーロッパ各地を巡演している。レンヌ国立振付センターの芸術監督を務め、2009 年 1 月からはブリタニー国立振付センターの芸術監督をも兼任している。



【主催】 慶應義塾大学アート・センター  
【助成】 財団法人セゾン文化財団  
【運営】 NPO 法人魁文舎 NPO 法人舞踏創造資源  
【協力】 慶應義塾大学 DMC 機構 ポートフォリオ BUTOH  
【お問い合わせ】 慶應義塾大学アート・センター  
TEL: (03) 5427-1621 FAX: (03) 5427-1620  
Email: art-c-butoh2009@adst.keio.ac.jp  
http://www.art-c.keio.ac.jp/event/log/304.html